

蔵出しお宝ニュース

— 第 32 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。
本紙では、資料館内で長く眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と行事の案内・紹介などを
随時行って参ります。

すずき なみえ 「鈴木方衛の松」をミニ展示

皆様新年あけましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願いいたします。

昨年 12 月 16 日（月）付の中国新聞「今昔ものがたり」で、当館所蔵の昭和 45（1970）年頃の三原駅前を撮影した古写真と鈴木方衛の松について紹介されました。

かつて三原駅前の旧三原城郭内に 10 本余りの松が植えてありました。ところがいつの頃からか伐採され、最後の 1 本だけが残っていました。昭和 39（1964）年、三原市はこの松を「鈴木方衛の松」と命名し、石碑も建てました。ところが昭和 53（1978）年頃、三原駅前再開発工事の計画でこの松が伐採されることとなり、有志によって「三原城の松を偲ぶ会」が結成されました。市当局と交渉を重ね、松を無償で譲渡を受け、伐採工事費一切を偲ぶ会が負担することが決まりました。昭和 56（1981）年 2 月 27 日、遂に鈴木方衛の松は伐採されました。偲ぶ会は譲渡された松の木で菓子器や盆、茶托、机など数百点を宮島の職人に依頼して作り、希望者に配布しました。松の高さは 17.3 メートル、根元直径は 78 センチでした。



鈴木方衛の松で作られた菓子器（個人蔵）

偲ぶ会の「惜しまれつつ消えていったこの松で記念品を製作 往時を偲ぶ縁としたい」という思いの通り、記念品は所有者のもとで大切に保管され、横に建てられていた石碑は当館の裏で現在も見ることができます。

現在、当館 1 階の蔵出しお宝ミニ展示コーナーに、記念品として作られた菓子器と鈴木方衛の松の古写真パネルなどを披露しています。ぜひご覧ください。

資料館マメ知識 「鈴木方衛」とは？



昭和初年頃の三原駅前風景



昭和 30（1955）年頃の三原駅前風景
写真左側の背の高い松が「鈴木方衛の松」

置き どこ しゅん じゅう
置 床 春 秋



掛物 蛸霞 筆 蓬萊飾 画賛
蓬萊耳 聞可はや伊勢能 者つ多与梨
者せ越（芭蕉）
花入 唐銅鶴首 花 季のもの

鈴木方衛は三原浅野家 8 代・忠愛^{ただよし}の家臣で、明和 7（1770）年、広島藩が江戸幕府から日光東照宮の修理を命じられた時、総司の忠愛を助け、大役を果たした功績に対し、徳川十代将軍家治から紫縮緬の葵紋付の幕と駕籠^{かご}をもらい「三原に過ぎたるもの 3 つ、鈴木方衛と葵の幕、将軍家の駕籠」と今も語りつがれています。

また方衛はその後、忠愛が江戸へ行く際、随行を許されなかったことに立腹し、松の木に登って忠愛が嫌っていた猿のまねをして駄駄をこねました。これには忠愛も弱り抜き随行を許したという話が伝わっています。方衛の墓は西町の大善寺にあります。その後、三原駅前に最後の 1 本だけ残っていた松が、方衛が登った松であろうということで「鈴木方衛の松」と命名されました。

ところが伐採された時に年輪を数えると樹齢 190 年余りということが判明しました。鈴木方衛没後約 190 年であり、この松に方衛が登ったというのは誤りで、どうやら登ったのは別の松であったようです。



昭和 39（1964）年「三原城正門跡 この松は鈴木方衛の松という」の石碑を建てました。

発行 平成 26（2014）年 1 月 8 日

〒723-0015 三原市円一町二丁目 3 番 2 号

三原市歴史民俗資料館

TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用などしないようお願い申し上げます。